

# 岩手県技術士会 部会活動報告

活動名	トンネル現場研修	(CPD 番号 22 -9 )
主催	施工部会	
日時	平成22年 8月23日(月) 13:00 ~ 15:30	
場所	住田町津付ダム国道397号付替国道1号トンネル	
参加人数等	7人	

## 活動内容

### 1 事業の概要説明

・津付ダム建設事務所に集合し、菊池所長さんの挨拶および佐々木主任主査からの事業の概要説明、藤川技師からトンネルの説明を受けた。



左から菊池所長、佐々木主任主査、藤川技師                      佐々木主任主査、藤川技師から事業、トンネル概要説明

#### ① 事業概要

・本事業は、気仙川沿川の洪水被害を軽減する目的とする津付ダム建設事業である。  
 堤高48.6m 堤頂長165.0m 集水面積50.3km<sup>2</sup> 総貯水容量5,600,000m<sup>3</sup>

#### ② 1号トンネル

・付替道路  
 一般国道397号 L2.7km トンネル3本、橋梁3橋

・1号トンネル  
 ・ダム建設に伴い一般国道397号の付替工事L=2.7kmのうち大船渡側の最初のトンネルである。  
 延長L=423.0m 幅員W=6.5m(8.0m) 内空断面A=60.8~65.9m<sup>2</sup>  
 NATMによる発破掘削・タイヤ方式

### 2 現場見学

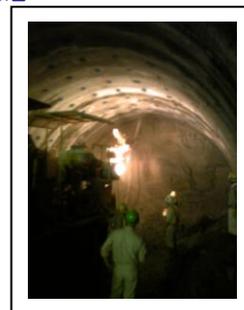
・現在の切羽は、大船渡坑口から概ね137mの位置  
 ・地山区分はCII種であったが、切羽の自立性が悪くDIで施工



坑口



切羽は粘板岩  
 ※硬質だがクラックが多く  
 剥離性高い



モルタル吹付け作業

# 岩手県技術士会 部会活動報告

(感想)

- ・いつもながら、CⅡ種からD種に変更する場合の判定は難しい。
- ・発注者の立場から言えば、経済的なC種で、しかし施工者の立場から言えば安全で費用も見て貰えるD種が望ましい。
- ・納税者への説明責任を全うするためには、こういった設計変更に対する簡単で明瞭な判定基準が必要である。
- ・物理探査結果による、地山分類には限界はあることは周知の事実である。
- ・しかし、地山判定を行う場合、既存の物理探査に加え、地質図や地質踏査による技術者の経験知などの定性的な地山の評価と切羽の定量的評価が必要であると思慮する。

《平井記》

## 《写真集》



概要説明



現場での説明



切羽調査状況



全体写真